



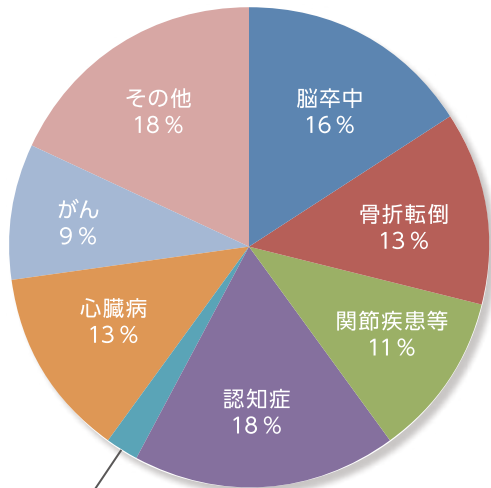
いつまでも住み慣れた町で暮らすために 地域包括支援センターだより

令和2年度中に介護保険申請をするきっかけとなった疾患は「認知症」が一番多く、次に「脳卒中」「骨折転倒」でした。

前講座を開催しますので、ぜひ活用ください。
町では、認知症になっても安心して暮らせる町となるよう、認知症を正しく理解し認知症のかたやその家族を温かく見守る役割で

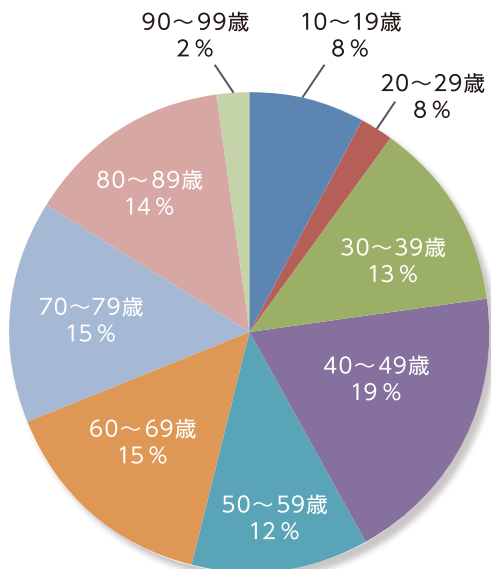


介護が必要になった原因疾患 (令和2年度)
※介護環境課独自調査より



高齢による衰弱 2%

年齢別の認知症サポーター
※介護環境課独自調査より



認知症や骨折転倒は前年の令和元年度よりも増加していて、特に予防が重要なものとして挙げられます。認知症や骨折転倒予防についての講話や脳トレニングの実践などの内容で、出

ある「認知症サポーター」を随時養成しています。11月30日時点のサポーターは、小学生からシニア世代まで786名。日常生活の中でさりげなく見守る役として地域で活動しています。オレンジ色のリングがサポーターの目印です。



認知症と診断され、受け入れるまで時間が掛かりますが、周りに打ち明けることで本人や家族の心にゆとりが生まれます。周りのサポーターや近くの介護関係者などに気軽に相談ください。相談を受けたサポーターや介護関係者のかたがお困りの際は、地域包括支援センターまで問い合わせください。

問い合わせ先
役場介護環境課地域包括支援センター
☎(86)1153[直通]

脳トレコーナー

「ある」方の共通点や特徴を見つけよう。

ある	ない
あくま	てんし
しかいしゃ	かんきやく
ぼうさい	ひがい
ぞうきん	ほうき
カバン	バッグ

*** 次回の「ろばカフェ」***
当事者や家族で語りましょう

○日時
令和5年1月13日(金)
午後1時30分〜3時

○場所
町文化ホール

※変更になる場合があります。